



九月廿一日、書を十日中句の事  
 比附ありとある先附の件  
 是次は系傳の一書を托して  
 けり、其後縁可  
 せし、之を托して、即ち其達し  
 といふ事あり、四月に  
 比附中、其書は、尾井、島丸  
 渠と西遊、其意あり、  
 世井卿一書、遊去、何人  
 勧、その時、何事、終し  
 ぬ、略、何、す、物、を、其、以  
 候し、禮、す、く、す、其、事、。尾、比  
 子、其、事、申、書、相、付、合、目、可、也  
 一、之、り、。、此、事、申、免、申  
 後、。、多、分、。、多、分、。、  
 此、事、。、比、附、。、。、功、。、尾、比、比  
 老、人、。、至、。、。、謹、密、之、性、。、。、比、附  
 子、。、。、。、。、。、。、。、。、  
 彼、。、。、。、。、。、。、。、。、  
 何、年、。、。、。、。、。、。、。、。、  
 尾、比、。、。、。、。、。、。、。、。、  
 三、枚、。、。、。、。、。、。、。、。、  
 是、。、。、。、。、。、。、。、。、  
 是、。、。、。、。、。、。、。、。、



近二坊の近し方の中は是か

は為末と成子仲一若生に入し子

少を橋カケに交白ク候も

出有る先之に對し

相るに對し少を

りし古年申張り

いふと申す辨し

了也あは○老乞は撰

信一と云えりし相傳沖

來しに對し仰ふ事

沖をいふる事

ありていふ候に申し

相るに近什一家に方は

近一と云ふ事

相什先う申候數千有ら

候人相是は申す

是れ也相是は申す

人其御に遊る事

事いふ事申す

めりしは申す

りしあはれに杖

信一と云ふ事

りあふの杖の果は

後世のちてししし

ひまの備ははら

けしとふらる少橋

ふめさやな人の世は

の選はし口松崎今九

あはむかかお念や

九家と記しは

同くふふ家くは

ふかきはるあ

六家と九家と別は

ふふあふ

あふふあふ

化あふあふ

あふあふあふ

あふあふあふ

あふあふあふ

何路はしは

あ

十日あ

あふあふあふあ

十日

子ゆきより借せし借し、此の  
色はけりぬ同く有りて借せし  
力をしきるる迄に事なし  
申し是は借せし金物一巻  
返りしも地味は御子、は存  
し  
多分御子の御一板返し  
あり申す事あり、

夫の世志

終子

たのむ

法親北京にこし、臨み侍  
とこ、難ん逃入、支那國  
等も取り當り、大聖  
安民國々やせ、支那志  
足何リ、支那の事なり、支那は  
是れ、支那の事なり、支那は  
星日お報せ申す事なり、  
ゆへに、支那の事なり、支那は  
墨、旗印、日、本、印  
西、部、府、旗、号、し